

第3回福岡市データ活用推進有識者会議 議事要旨

1. 日 時：令和5年2月2日(木) 11:00～12:00
2. 場 所：アクロス福岡 605会議室 (Web会議併用)
3. 出席者：荒牧座長、小笠原構成員、楠構成員、西内構成員、日置構成員、久留構成員
事務局：福岡市総務企画局DX戦略部
河津サービスデザイン担当部長、橋本DX戦略課長

4. 議事概要

- (1) 開 会
- (2) 議 事

福岡市データ活用推進計画の改定について (福岡市DX戦略 原案 について)
(事務局より福岡市データ活用推進計画の改定について説明)

質疑・意見交換

【楠構成員】今後数年間のデータ活用、DXの計画ということであれば、この1年くらいの環境変化を踏まえる必要があると思う。自然言語処理を扱うAIのレベルがこの数か月間で急激に向上しており、これまで5年後 10年後にならないと実現しないと考えられていたことが可能となってきているので、そこを反映した方が良いのではないかと思った。

【小笠原構成員】データ連携基盤 (p17) については、AIの活用などを検討できる体制になっているものなのか、市のエンジニアがアプリケーションやサービスを作成できるものなのか。また、推進体制 (p22) について、UI・UX、デジタルデザインの部分を庁内の職員のみでなく民間人材などにも意見をもらえる状況になっているのか。

業務プロセスの見直し (p19) については、現状をベースとせずに、ゼロベースで作り上げる視点で取り組んでほしい。民間データの活用 (p17) については、提供に対するインセンティブまで踏み込めるかというところが気になった。

【事務局】データ連携基盤は現在構築中であるが、運用開始段階では、ポータルサイトからプッシュ型の情報提供を行うことを想定している。また、オープンデータの提供などをサービスとしてイメージしている。基盤へのAIの活用など将来的な展望については、今後、関係部署とも連携しながら検討したいと考えている。

推進体制については、本計画における庁内の推進体制を記載したものであるが、庁内のデジタル人材の確保等について課題意識は持っており、データ連携基盤の活用など具体的な取組みを進めるにあたり、民間人材との連携や、「まちのDX」（p17）に記載しているように、多様な主体との連携を想定している。

【久留構成員】各施策のKPIについては、市民にとって具体的で分かりやすいものが示されるとよいと思う。

「くらしのDX」（p16）について、前回の資料では「誰一人取り残さない人にやさしいデジタル化」という文言があったが、残した方がいいと感じる。また、「プッシュ型」という言葉は、少し押し付けのような印象を受けるため、例えば、「提案型」などもう少し柔らかい別の言葉にできたら良いと思う。

【事務局】「誰一人」の表現については、「趣旨・目的」（p6）の「誰もがデジタル化の恩恵を実感できること」や、「くらしのDX」（p16）の「誰もがデジタル技術による便利な市民サービスを活用できる環境づくりを推進します」において、同じ趣旨の表現を用いているが、表現が足りていない部分については再考したい。

「プッシュ型」（p16）については、「必要なサービスが面倒な手続きなしに受けられる」ことを補足して記載しているが、より良い表現がないか検討したい。

【日置構成員】推進項目の実効性を担保するためにも、推進体制をどのように構築し、運用していくのかという点が重要であると感じる。例えば、外部サービスを使用する際の契約書のチェックなどがすべてDX推進会議のもとで行えるのかといったことがある。また、改正個人情報保護法が自治体においては令和5年度から適用されるが、民間企業や研究者から行政機関等匿名加工情報の提案があった場合に、審議会がなくなる中で、法令・条例に基づき適正に運用していくために、どこが審査権限を持ち、活用を進めていくのかといった課題があると思う。民間データを集約して対応する際の契約関係、知的財産、リスク管理などの検討・対応がポイントになると思う。

【西内構成員】計画を実行した際の評価について、実際にやってみて評価して改善していくというプロセスの部分があると、より良くなるのではないかと思う。

【荒牧座長】各構成員から意見が出たように、推進体制については市役所内部の体制が

基本にあるものの、法律面などの専門性も担保しつつ、ユーザーなど外部の方の意見も取り入れることについて、市で検討が必要な部分があるのかなと思う。

また、技術の進歩が想定以上に激しく、計画の4年間のサイクルに対して、しっかりと修正・見直しをかけていけるかという部分が出てくると思う。

以上